

新型コロナウイルス感染症対応マニュアル  
(小学生の部)

1. 新型コロナウイルス感染症の感染経路は2つ
  - (1) 飛沫感染（咳・くしゃみ、おしゃべりによる感染）
  - (2) 接触感染（手、肌で触れることによる感染）※ 特殊な環境下（密閉空間、長時間、多量のウイルス量）では、空気感染（エアロゾル感染）もあり得ると考えられていることにも留意すること。
2. 一般的な予防方法
  - (1) 「3つの密（密閉、密集、密接）」を避ける。
  - (2) 手洗いと咳エチケットに心がける。
  - (3) 口・鼻・目に不用意に触れない。
  - (4) 規則正しい生活とバランスの取れた食事に心がける。
3. 感染を注意すべき関係者
  - (1) 選手、チームスタッフ、およびその家族・同居人
  - (2) スタッフ：大会役員、競技役員、およびその家族・同居人
  - (3) アリーナスタッフやトレーニング施設スタッフ
  - (4) 試合運営に関わるボランティア、警備スタッフ、売店スタッフ、清掃スタッフ
  - (5) チームバスの運転手
  - (6) メディア
  - (7) ファン・観客
4. 関係者全員の健康チェックの提出と行動記録
  - (1) 体温（起床直後・就寝前等の体温）測定を行い、毎日記録する。
  - (2) 健康チェック：倦怠感、咳、咽頭痛、食欲低下の有無、睡眠時間などのチェックをする。
  - (3) 日々の健康チェックに加え、体調不良者が出た場合、数時間後に改善したとしても、直ちに大会事務局に一報入れる。
  - (4) 毎日の行動記録：買い物、会食、戸外でのトレーニング等、出向いた場所・同行者などの毎日の行動メモを残す。
5. 大会前の練習等について
  - (1) 大会開始日の2週間前から管外チームとの合同練習や試合を行わない。
6. 試合会場への入場
  - (1) 到着時に体温チェックし、37.5度以上の者は帰宅させる。また、家族・同居者が、直近14日間にコロナ感染症の疑い症状（発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常）を起こしていないことを、宣誓させる。
  - (2) 会場への入場を密にならないようにコントロールする。
    - ① 常時不織布のマスクを着用する。
    - ② 会場内で定められた動線を守ること
7. 試合前後のトレーニングでの全般的注意事項
  - (1) 更衣に関してはできるだけ自宅やホテルから着替えてくること。
  - (2) 人と人の接触を減らす。チーム全体ではなく、グループ単位で行う。（グループを記録に残す）
  - (3) 共通のモノを通じた接触を減らしこまめに消毒する。タオル・ウオータボトル・防具・スティックなど
  - (4) 全員が感染防止マナーを守る。
    - ① 社会的距離（できるだけ2m、最低1m）
    - ② 咳エチケット（不織布のマスク着用を含む）

- ③ 手洗い、手指消毒（70-80%アルコール）
- ④ 不用意に自分の顔、とくに目・鼻・口などの粘膜に触れない。
- ⑤ 握手、ハイタッチ、抱擁など物理的な接触は禁止する。
- ⑥ 唾吐きや不要な会話、大声を避ける。
- ⑦ 控室、トイレなどのドアノブはこまめに消毒する。

## 8. 練習前後のミーティング

- (1) 実施する場合は屋外で、短時間とする。不織布のマスクを着用。社会的距離（できるだけ2m、最低1m）をとる。

## 9. 試合開始直前

- (1) ブルーラインの整列は社会的距離（最低1m）をとる。
- (2) 試合開始直前に行うレフェリーからの注意は試合前に行う。
  - ① ビデオミーティングで済ませることを推奨する。
  - ② 実施する場合は屋外で、短時間で実施。不織布のマスクを着用。社会的距離（できるだけ2m、最低1m）をとる。手指消毒など標準予防策をとる。
  - ③ ホームチームを決める必要のある場合も事前に決めておく。
- (3) 試合開始に先立ち行う挨拶
  - ① レフェリーとの接触を避ける。握手せず社会的距離をとって礼のみ
  - ② 相手チームスタッフとの接触を避ける。レフェリー、ラインズパーソンも同様とする。
- (4) 試合前に行う円陣は小さくならないように配慮。エアータッチなどの工夫で接触を避ける。
- (5) のうたボトル等は、自分で設置、移動することに心がける。

## 10. 試合中

- (1) ベンチ内は社会的距離を意識し、向き合わないなどの工夫する。
- (2) 選手以外のベンチスタッフは不織布のマスク・手指消毒など標準予防策をとること。
- (3) あごマスク等を含めマスクを外した場合は、懲戒の対象になる。
- (4) ベンチ内では飛沫感染防止のため、選手やベンチスタッフが、大声を出したり、唾吐きやいったん口に含んだ水などを吐きだす行為を禁止する。（ペナルティ対象）
- (5) タオル、飲水ボトル等を共用しない。（個人の物は、個人で運ぶ=スティックなど）
- (6) ヘルメット、マウスガード、ネックガードなどは、プレイ中はずれて、レフェリー、ラインズパーソンが拾うことがないように正しく装着する。
- (7) 試合中断時のパックは、選手からレフェリー、ラインズパーソンへの手渡しはしない。プレイヤーは中断時のパックに触れない。
- (8) ゴールテンダーがパックを保持したことによりゲームが中断した場合、そのゴールテンダーはリンク上にパックを置き、ラインズパーソンがパックを拾い上げる。
- (9) プレイヤーは、ラインズパーソンとの距離を保つため選手交代時以外は、ベンチに座る。ゲーム中に交代以外の選手がボード沿いに立っているのをレフェリーが確認出来た場合は、ベンチスタッフにプレイヤーをベンチに座らせる様、注意を行う。

## 11. 休憩時

- (1) 控室内でも社会的距離（できるだけ2m、最低1m）を確保し、人数制限があるところは、それを守る。
  - ① 空いている部屋があれば追加の控室として利用できるよう割り当てる。
- (2) 選手及びチームスタッフは不織布のマスク・手指消毒など標準予防策をとること。
- (3) 選手への指示は飛沫感染を意識して短時間に、大声を出さないなど工夫する。
- (4) 控室の滞在時間を、できるだけ減らす。
- (5) 控室は窓を開けて、換気に心がける。控室を離れる際、忘れずに施錠をする。

## 12. 試合終了後

- (1) 試合終了後、両チーム分かれてオフィシャルボックスに向かって社会的距離（最低1m）をとって整列する。
- (2) 表彰のある場合、授与者及び介添人は不織布のマスク・手指消毒など標準予防策をとること。握手を禁止し、写真の撮影はソーシャルディスタンスを配慮して行う。

- (3) 試合結果アナウンス。両方向に向かって礼をしてベンチに戻る。レフェリーや相手ベンチにはいかない。
- (4) ベンチに戻った選手から、不織布のマスク着用のうえ所定の場所で、帰る準備を短時間で済ませる。
- (5) 着替えは可能な限り自宅などで行い、選手控室（更衣室）では行わない。
- (6) 自宅に戻ったらヘルメットやグラブ、スティック、スケート靴など他人の飛沫がつきやすい用具の消毒、ジャージやストッキングなどの洗濯を行う。

### 13. 練習場・試合会場へのアクセス

- (1) 公共交通機関を利用しないことが、推奨される。
- (2) 自家用車で一人ずつアクセスすることが、推奨される。止むを得ず、複数名で自家用車に乗車する場合は、空調、窓開けなどによる換気を最大限行う。
- (3) 駐車場でも余裕があれば、離れて駐車することが、推奨される。
- (4) チームバスを利用する場合には、バス会社への事前の依頼事項を徹底する。
  - ① バス乗車人数を減らし各選手間の距離 1.5~2m を確保する。
  - ② 着席する際は出来るだけ前後左右に各 1 席の空席を確保し、運行中は移動しない。
  - ③ バス内では不織布のマスクを着用する。
  - ④ バス内での飲食は控える。
  - ⑤ 窓を開けて、換気をする。1 時間につき 3 回の換気が推奨される。
  - ⑥ 乗降時には手指を消毒する。

#### ※ バス会社への事前の依頼事項

- 励行する感染症予防対策ガイドライン等の提示（行政機関、加盟同業団体、自社制作等）
- 利用直前の車内消毒
- 乗務員の体調管理及びマスク、手袋の着用
- 手指消毒液等の車内配備
- 運行中の車内通気・換気の徹底

### 14. 取材に関して

- (1) 取材を認める場合下記のような厳格な感染対策をとる。取れない場合は入場を許可しないこともある。
  - ① 常時不織布マスクを着用させる。
  - ② 常に社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）をとらせる。
  - ③ 取材前に体温測定し、37.5 度以上の場合、会場から退去させる。
  - ④ 取材者とその家族・同居者が、直近 14 日間にコロナ感染症の疑い症状（発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常）を起こしていないことを、宣誓させる。
  - ⑤ 緊急時の連絡先を確認する。

### 15. 新型コロナウイルス感染症対応で必要となる情報

- (1) チームは以下の情報を把握しておくこと。
  - ① 参加者名簿（選手、チームスタッフ）、同伴保護者
  - ② 大会開始 2 週間前からのチームの行程
  - ③ 参加者（選手、チームスタッフ）、同伴保護者の基礎疾患
  - ④ 保護者等の連絡先